

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270500566
法人名	株式会社 こすもすケアセンター
事業所名	グループホーム秋櫻
所在地	〒856-0813 長崎県大村市西大村本町755-1 (電話)0957-20-7700

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(H19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13人	常勤 9 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(150,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000)円 無	有りの場合 償却の有無	有(期間:5年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋櫻医院 中澤病院 こころと歯の診療所
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年に設立された当ホームは、静かな住宅地の中にあり、溶け込むように存在している。同系列の病院や介護施設なども近辺にあり、入居者への支援の幅が広い。地域密着型への対応は早期から取り組まれており、町内会へ入会して盛んに交流を図るなど地域住民との相互関係も成熟している。介護理念を「生き生き暮らせる居心地良い住まい」として職員にも浸透し、又、独自の年間スローガンの二つを掲げ、日々実践されている。入居者は我が家のように自分のペースで生活されており、さりげないスタッフの支援がしっかり生かされているのが窺えるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題はなかった。職員間で馴れ合いにならないよう努められている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者を含めて全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、年間4回以上開催されている。地域住民として町内会会長、民生委員、家族や退居された方、行政担当者など、関係者が可能な限り参加され、意見交換をされている。外部評価の情報公開や、運営・活動予定など意見交換できている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱を設置している。家族は「紙に書くより直接スタッフへ相談する」とのことで、信頼関係が構築されている。家族の面会も多く、伝えるべき情報の伝達は十分できている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 施設が住宅地に隣接しているため、施設全体が町内会に入っている。住民との交流も盛んで、防災訓練や住民を交えた催し物への参加、入居者の散歩、買い物などでも顔見知りの付き合いになっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した取り組みを実践されている。理念やグループホーム独自のスローガンが全職員に浸透している。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念の共有を意識して日々のケアに生かしている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事への参加、地区住民に向けて施設行事参加への呼びかけなど積極的に取組まれ、入居者は近隣住民と顔なじみになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員と管理者を含め自己評価に取り組んでいる。自己評価及び外部評価は、家族や職員のほか運営推進会議など外部にも公開し、評価を活かしている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、町内会会長、施設退去者など参加呼びかけて、ほぼ2ヶ月1回程度開催し、意見をもらっている。		

グループホーム 秋櫻

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者にも運営推進会議への参加呼びかけをしている。日時の都合で参加回数が少ないが、運営推進会議以外にも立ち寄ってもらうなどの連携が取れている。民生委員は入居者家族で、他の入居者や家族との相談にも応じている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会は頻繁にあり、県外在住の家族面会は最低でも月1回ある。その都度健康状態や職員異動があれば必ず報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会後の帰られる際にはスタッフが必ず声を掛けて、入居者の変化などの気付きや不満などはないか聞き取る体制が日常化しており、意見箱への苦情や意見は入っていない。家族の意向は運営に生かす努力をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限度の1名で、隣接した系列事業所へ異動するなど、入居者とのなじみの関係を継続しており、交替による入居者のダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同系列グループ内の研修会が月1回あり、多くの職員が参加している。外部研修参加の希望があれば積極的に参加できるよう勤務調整している。		服薬チェックミスが報告されている。文書類等は極力少なくし、現在職員間のコミュニケーション力の強化を実践中である。改善すべき点が職員間のコミュニケーション能力ということを管理者が認識されているので、今後の更なる職員間のコミュニケーション能力及びチーム力強化が期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回連絡協議会が開催され、同業者間の交流を持ち、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>系列病院から入居になる場合は、時間をかけて面接、見学など行い、ホームの雰囲気に馴染みながらサービスの利用を開始している。又、近隣住民の中には「いずれはここに入居したい」と言われ、催し事以外にも立ち寄られる住民もおられる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が記録などで入居者と接する時間を割かないような取り組みをされている。入居者から昔の知恵を教えてもらうなど支えあう関係を築かれている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人のペースに合わせた介護の取り組みに努力されている。入浴時間の希望を優先するなど、本人のペースに職員が合わせる取り組みなど、実践されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを定期的に行っている。随時家族の要望も取り入れられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。家族や入居者の要望に応じて見直しや変更などをされている。</p>		

グループホーム 秋櫻

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 of 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて通院の送迎など必要な支援は柔軟に対応されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や施設がかかりつけ病院への通院介助を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態に応じて医療・家族・介護者との連携が行われている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の取り扱いには十分注意している。誇りを損ねるような対応、言葉かけなどがないようにミーティング時に職員が意識向上を図り、日々の関わり方など話し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からの訴えが少ないため、一人ひとりの体調に配慮しながら、できる限り個別性を考慮した支援を行っている。		

グループホーム 秋櫻

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の体力など徐々に低下傾向にあり、最近準備や片付けへの参加は減少している。四季折々の変化を持たせた献立や、誕生日時に希望を取り入れた食事にも配慮している。昼食のみ施設内の厨房に任せている。栄養士との協力体制が整っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に沿った入浴ができるよう取り組まれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人個人に合わせた作業を、周囲の入居者にも声をかけて頼み、感謝の言葉を伝えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望で外に出たがる入居者には、なるべく希望に沿うようにしている。近所の商店で買い物するなど支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はない。安全面に配慮した対応をされており、自由な暮らしが送れるように支援されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や近隣住民にも参加した、消防、避難訓練をされている。月1回施設職員で夜間と昼間を想定した避難訓練を交互に行い、日々の点検をしている。		

グループホーム 秋櫻

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎食チェックし、職員間での情報を共有している。水分はいつでも補給できるような環境作りがなされている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るいガラス張りが各所に見られる。中庭には野菜の栽培や花壇などがあり、季節感を取り入れた空間作りがなされている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の床はすべりにくい工夫をされている。床下にクッションが入っており、転倒への配慮がされている。居室は使い慣れた家具を置き、居心地良い工夫をされている。		